

日本畜産物輸出推進協議会が香港でオールジャパンの畜産PR



日本畜産物輸出推進協議会は昨年12月24～28日、香港コンベンション・エグジビションセンターでオールジャパンの牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳・乳製品を一堂に集めたPR活動を行った。香港には日本畜産物すべてが輸出可能であり、平成26年12月に日本畜産物輸出推進協議会が発足してオールジャパン・オール畜産で輸出に取り組む体制ができていたことを合わせ、畜産物の輸出にあたりジャパンブランドとして全体が一体になって取り組む初めての機会となった。開催に先立ち、菱沼毅理事長が日本畜産物の優秀さと安全性について説明。「日本から多くの関係者がきており、十分な満足と対応をさせていただきたい」とあいさつした。

今回のフードショーは、10以上の国々の650社が出展、120万人以上の入場者が訪れる、香港で行われる食品関係では最大級のイベント。同協議会は日本食文化エリアへ出店。牛肉(スターゼンインターナショナル、ミートコンパニオン)、豚肉(サイキ、JA全農、伊藤ハム、アーク、米本畜産、日本ハム、高源精麦)、鶏肉(全農チキンフーズ、ジャパン・フード・サービス、深川養鶏農業協同組合、ニチレイ)など約50人の関係者が集結した。ステージプログラム「名厨教室」ではセミナーと実演が行われ、調理実演で立見も含めて各200の観客から多くの喝采を受けたほか、試食提供も行われた。

牛肉はミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役、スターゼンインターナショナルの江口和夫氏、豚肉は江口氏、高源精麦の高橋誠社長、鶏肉は深川養鶏農業協同組合の長尾英樹組合長がプレゼンを行った。植村常務は「いまで、さまざまな国で和牛の啓もう活動を行ってきたが、香港は日本的なスタイルス文化も定着していて大きな需要に結びついていることが確信できた」とした一方で、「ただし競合も多い。今回市場調査も同時に行ったが、韓国産の韓牛サーロインステーキが210香港ドル/100g(3150円/100g)と、日本最上級和牛肉の市場にターゲットを絞ったものも出てきている。今後はますますナショナルブランディング政策が必須になってくる、和牛の統一マークの認知活動に一層注力していきたい」と感想を述べた。

【訃報】内藤哲也氏(京都府肉連副会長、京都府生衛組合副理事長)

内藤哲也氏(ないとう・てつや)京都府食肉事業協同組合連合会副会長、京都府食肉生活衛生同業組合副理事長、京都府食肉公正取引協議会副会長、京都府中南部食肉事業協同組合理事長、77歳) 12月31日未明に心不全で死去。

通夜は1月2日午後7時から、告別式は3日午前10時半から京都府八幡市八幡南山45、セラマ南八幡シティーホールで執り行われた。喪主は長男の内藤光晴氏。